

＜研究成果の紹介＞

犬を利用した果樹の猿害防止策

農業研究部紀南果樹研究室

1. 成果の内容

近年、農作物等において獣による被害が増加しています。イノシシやシカは塀や電気柵機等により果樹園への進入を防ぐことができますがサルについては被害防止は非常に困難です。そこで、イヌをサルの天敵としてとらえ、サルが自ら果樹園に近づかないようにする方法について検討したので紹介します。

紀南果樹研究室のビワ、スモモ、ナシを使い試験しました。

(1) イヌのつなぎ止めによる食害防止

平成13年5月29日には場内のビワがサルの食害を受けました。そこで、1歳6カ月（体重約19kg）になった「ボーダーコリー」をサルが山から進入してくる場所にワイヤーを張り、このワイヤーにイヌの鎖(1m)をつなぎ止めました。イヌはワイヤーの端から端まで移動可能となるようにしました（図）。イヌのつなぎ止めは、午前6時頃から午後7時頃までとしました。5月29日に食害を受けた後5月30日～6月4日まで6日間つなぎ止めを行った結果、サルの食害は見られませんでした。しかし、途中雨天のためつなぎ止めを行わなかった6月5日に再びサルの食害を受けました。その後、2日間イヌのつなぎ止めを行い 合計8日間つなぎ止めを行ったがサルの食害は見られず、6月18日にビワが収穫できました（表）。

(2) イヌの放し飼いによる食害防止

ナシ園の周囲に鉄製のフェンスを張り、その中にイヌを放し飼いにし、イヌの存在がサルの食害行動にどの程度影響を及ぼすか調査しました。イヌを放し飼いにする時間は、ビワのつなぎ止め時と同様午

前6時から午後7時としました（図）。平成13年7月8日に高さ2mのフェンスを乗り越えてナシ園にサルが進入しナシの果実が食害を受けました。この後、13日間イヌをナシ園に放した結果イヌがナシ園にいる時は近くにサルが出没していたにもかかわらずサルのナシ園への進入は見られませんでした。少なくともサルはイヌの行動範囲内には進入しないことが確認されました。その後、イヌの放し飼いを中止したところ8月10日に再びナシがサルの食害を受けました（表）。

2. 技術の適用効果と適用範囲

果樹類だけでなく、サルの追い払いを必要とする場面で利用できます。

3. 普及、利用上の留意点

イヌの飲み水を必ず園内に充分確保する必要があります。また、夏場等の暑い時期に利用する場合は必ず日陰を準備しなければなりません。

(市ノ木山 浩道*)

*現在：園芸グループ

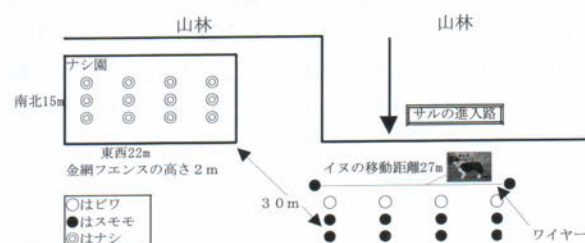


図 ビワ・スモモおよびナシ園のサルによる食害防止試験見取り図

表 果樹園におけるイヌのつなぎ止めおよび放犬がサルの食害に及ぼす影響（平成13年）

調査期間	調査日数	ビワ・スモモ		ナシ		備考
		イヌのつなぎ止めの有無	サルによる食害 ビワ スモモ	放犬の有無	サルによる食害	
5月29日	1日	×	有			
5月30日～6月4日	6日	○	無			
6月5日	1日	×	有			雨天のためイヌつなぎ止めず
6月6日～7日	2日	○	無			
6月8日～7月7日	30日	×	無	×	無	6月18日 ビワ収穫
7月8日	1日	×	有	×	有	
7月9日～13日	5日	×	無	○	無	
7月14日	1日	×	有	○	無	スモモ被害有り
7月15日～16日	2日	×	無	○	無	近くにサル出沒
7月17日～26日	10日	×	無	×	無	
7月27日～29日	3日	×	無	○	無	近くにサル出沒
7月30日～8月9日	11日			×	無	
8月10日	1日			×	有	サルによるナシの被害甚大
8月11日～12日	2日			○	無	8月13日 ナシ収穫

注) ○は有り、×は無し